

1 学校教育目標

○けんこうな子…心身ともに健康な子を育てる ○助け合う子…情操豊かで人を大切にする子を育てる ○よく考える子…よく考え進んで学ぶ子を育てる

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○保護者にとって…子どもを通して「安心感がもてる学校」 ○在校生にとって…学校生活に希望をもち「わくわくする学校」 ○卒業生にとって…卒業したことに「誇りをもてる学校」 ○地域にとって…地域の宝だと「大切に思う学校」 ○教職員にとって…心をつなげて「チームワークを発揮できる学校」
○児童・生徒像	○1秒の言葉…「はい」「ありがとう」「ごめんなさい」等、TPO に応じて自分の思いを相手に伝えることができる子 ○「自分で考え、自分で判断し、自分で行動できる」ことをめざす自己肯定感をもてる子 ○3つの無言…「放送時静止」「無言ゾーン」「無言清掃」を守って、安全安心な生活習慣を培える子
○教師像	○互いに切磋琢磨し、質の高い3つの『わ』の授業（「わくわくする授業」「わかる授業」「わらいのある授業」）を実践できる教師 ○発想の転換ができ、それぞれの役割を発揮しながら本来のチームワークを結集できる教師集団 ○自らのルーティンワークを確立し、働き方改革を推進する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- 児童
 - ・素直で明るく挨拶がよくできる。学校生活を楽しんでいる児童がほとんどである。一昨年の90周年を契機にさらに一体感を育んでいる。
 - ・学習面では基礎学力の定着が図られている。体力面では国や都の平均値と横ばい。発達障害の集団不適応児童への対応が急務である。
- 教師
 - ・経験年数が浅い教員が多いが、授業は足立スタンダードを元に安定した授業を日々行っている。初期対応と情報共有をモットーとしている。
 - ・主幹教諭3名を柱に4名の主任教諭が補佐として各部をまとめ、それぞれの力量を組織チームワーク力として学校力向上に向けている。
- 保護者、地域
 - ・本校教育活動に対して理解があり協力的な保護者が多い。PTA 会長を筆頭に本部役員は献身的な協力姿勢である。
 - ・7町会ある。どの町会も本校に対して愛着と協力的態度に満ちている。各種行事や催し物を復活し、子どもの育成を大切にしている。

【前年度の成果と課題】

○重点的な取り組み事項－1(学力向上プラン)

- ・4月区学力調査通過率は、国語 86.8%→88.8%，算数 87.8%→92.9%と前年度より確実な向上が図られ、目標値を大きくクリアしている。
- ・学力向上アクションプランに示した6項目中、◎:十分達成が3項目、○:おおむね達成が3項目となり、学力向上の取組として十分な成果を出した。

○重点的な取り組み事項－2(豊かな心の育成)

- ・90周年で確立した「関原小 心はひとへつ！」のキャッチフレーズを柱に団結感が醸成され、異学年や特別支援学級との交流でさらに一体感が育まれた。
- ・「一秒の言葉」の励行を学校経営方針の第一に掲げ、朝礼を筆頭に事あるごとに啓発した結果、TPO に応じて挨拶とともに言葉で伝えられる児童が増えた。
- ・アンケートからも「早寝 早起き 朝ごはん」のみが今一歩である。また、いじめや不登校解消に向けて、組織的かつ家庭との連携強化を図っていくことを継続する。

○重点的な取り組み事項－3(体力向上)

- ・都体力調査結果から、上体起こし、反復横跳び、立ち幅跳びは上昇したが、長座体前屈では低下が見られた。
- ・サーキットトレーニングから筋力トレーニングを取り入れた成果として、児童の体力運動機能の向上が全体的に図られている。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度）			R:令和	
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	体力向上	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－ 1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標			達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●
基礎学力の定着率向上と授業の質の向上を図る。			年度当初 両教科 83%以上 年度末 両教科 83%以上		4 月:国語 87.1% 算数 87.7% 10 月:国語 93.5% 算数 89. 0%		・2 教科ともに着実な定着が図られ安定している。 ・学習の定着状況と具体的な取組は 6 (1) へ記載		◎
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	朝学習 (パワーアップタイム)	全学年 国語 算数	毎週 火～金 曜実施 始業前 15 分	【指導者体制】担任, 副担 【取組のねらい・目的】 学習内容の復習, 定着 【使用教材】 AIドリル, 自作教材 等	漢字テスト 東京ベーシックドリル 等	年間を通じ, 全 学年漢字テスト 正答率を 80%以 上に保つ。	前期まとめ漢字全学年 平均正答率は 79%, 90 点以上の割合は67%だっ た。各学年向上が見られ るが, それぞれ 80%, 70% を保ちたい。	取組が 3 年になり経年変 化分析から対策を考察 できるようになったが, 毎 年同じテストにして全体 的に統一を図る検討が 必要。	○
2 継続	放 課 後 補 習	全学年の 補習必要 児童 国語 算数	通年 放課後	【指導者体制】担任, 副担 【取組のねらい・目的】 基礎的・基本的な内容の定 着、現学習単元の補充 【使用教材】 既習内容のプリント・AIドリル 等	日々の授業 単元テスト 到達度確認テ スト 等	2 月 の 確 認 テ ス ト で 国 語 ・ 算 数 共 に 通 過 率 を 83% 以 上 に 保 つ。	R6通過率 4 月 → 2 月 (国語) 2 年 82.9%→87.2% 3 年 88.0%→90.1% 4 年 87.1%→97.4% 5 年 85.5%→70.1% 6 年 92.1%→85.0% (算数) 2 年 96.9%→91.0% 3 年 90.4%→81.1% 4 年 92.9%→91.7% 5 年 74.2%→66.5% 6 年 82.5%→69.9%	時間内見直し, 空欄なく 最後まで粘り強い取り組 む指導とピンポイントな 個票分析を継続した成 果。補習時の他教師の 協力体制強化も要因。 次学年への指導重点ポ イント引継ぎ会は大変有 効な内容と自負する。	◎

3 新規	校長室検定	全学年 九九 4年生 23区 5年生 都道府 県 検定	通年の 朝学習 中休み 昼休み 放課後	【指導者体制】 管理職・学力向上委員会 【取組のねらい・目的】 基礎的・基本的事項の定着 【使用教材】 既習内容のプリント 合格証・免許状	校長室での検 定・教室での 表彰	九九は各学級 95%以上 漢字・23区・都 道府県は各学 級80%以上 の合格者をめざ す。	九九 92%達成(R5=93%) (算数)2年 未 3年 90% 4年 99% 5年 97% 6年 85% 23区正答率 7月 → 12月 5年 75.0%→85.3% 6年 86.3%→87.5% 都道府県 7月 → 12月 5年 91.6%→88.5% 6年 65.6%→68.0%	校長室九九検定の継続 とその徹底がケアレスミ ス減少につながった。 23区と都道府県の暗記 はこの時期の脳を鍛錬 することにつながり全体 的向上につながった。テ スト問題作成の工夫を学 力向上委員会で再検討 する必要がある。	◎
4 継続	夏季補習 教室	各学年 10名程度 の対象者 国語 算数	夏 季 休 業 中 10日間	【指導者体制】 全教員 【取組のねらい・目的】 基礎的・基本的事項の定着 【使用教材】 既習内容のプリント・AIドリル 等	到達度確認テ スト	2月の確認テス トで国語・算数 共に通過率を 3%以上アップさ せる。	R6正答率 4月 → 2月 (国語)2年 87.3%→89.3% 3年 88.2%→81.9 4年 75.9%→92.5% 5年 68.1%→60.7% 6年 69.4%→71.5% (算数)2年 92.3%→91.0% 3年 91.5%→81.1% 4年 79.8%→91.7% 5年 74.3%→66.5% 6年 63.9%→69.9%	サマースクール10回実 施。区調査個票分析か ら抽出児童を重点的に 不得手な単元をピンポ イントに全職員で指導。5, 6年以外は3%アップの 結果が出た。 AIドリルの活用は常に区 内上位をキープするほど 使用率アップ。効果が出 ていると分析する。	○
5 継続	ICT機器 活用 [授業力向 上]	全学年 全教員	通年 授業中	【指導者体制】 全教員 【取組のねらい・目的】 ICT機器を活用し、より質の 高い授業を实践する 【使用教材】機器・AIドリル等	週案簿へ記録 巡視で確認	1日1回以上 ICT機器を活用 した授業を行う。	1日1回以上のICT機器 活用授業を徹底。全教 科にわたり活用頻度が 著しくあがった。教員は 指導方法向上につなが り、児童は活用の飛躍的 な能力向上が図られた。	12月長崎よりICT活用 授業の視察を受け入れ た。全学級、全教科にお いてレベルの高い実践 を参観していただき、高 く評価された。	◎

重点的な取組事項－２		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童の豊かな人間性を育成する。		目標実現に向けた取組の実施結果が、4項目とも「おおむね達成」以上	学校の一体感がより一層育まれ、自己肯定感と愛校心がより培えた。	特別支援対応が必要な児童への対応	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
「1秒の言葉」の励行	- 意識調査の「挨拶」の項目で90%以上の児童が肯定的回答 - 保護者アンケートの「挨拶」の項目で80%以上が肯定的回答	「はい。ありがとう。ごめんなさい。」を基本とした挨拶等自分の思いを相手に伝えることを学校経営目標のひとつとする。 - 教職員や児童、代表委員会による毎朝の挨拶運動の実施。	「挨拶」項目(肯定群回答割合) 【全体平均 93.6%】 1年 85% 2年 94% 3年 96% 4年 96% 5年 100% 6年 92% [保護者] Q:「児童はよく挨拶をしている。」 A:80.0%(R5=85.6%, R4=78.0%) ・想いを相手に伝える大切さが浸透。	学校経営方針の核として、TPO に応じて「1秒の言葉」を相手に伝えることが定着。児童が輪番で行う挨拶運動も功を奏している。今年度の1年生の伸長を図ることが重要。	◎
「自分で考え、自分で判断し、自分で行動する」を目指した自己肯定感の高揚	意識調査の「自己肯定感」の項目で80%以上の児童が肯定的回答	- 全教育活動に賞賛による啓発指導の取り入れ。 「3つの無言」を遵守し、安全安心な生活を送る習慣の定着。 - 行事への主体的な関わる機会の設定と事前事後指導の実践。	「自己肯定感」項目(肯定群回答割合) 【全体平均 89.2%】 1年 85% 2年 89% 3年 94% 4年 88% 5年 86% 6年 92% ・『3つの無言』が定着。一人一人が安全安心な学校生活を意識して行動している。 ・自ら気付いて友達の為に貢献する『一日一善』をさらに強化推奨していく。	90%の児童が自分と友達との互いの良さを認め合い、善悪の判断を心掛け、安全で安心な学校生活が送れていると自覚できている。特に表彰朝会はその成果が大きく表れている。	◎
集団帰属意識の向上 (異学年活動・特別支援学級との交流活動)	- 全学年における交流活動の実践100%達成 - 意識調査の「協力的態度」の項目で80%以上の児童が肯定的回答	- 異学年交流(縦割り班)活動の実施。 - 特別支援学級と通常学級の交流。 - 幼保小連携交流。	「協力」項目(肯定群回答割合) 【全体平均 95.3%】 1年 92% 2年 93% 3年 96% 4年 99% 5年 100% 6年 92% ・お誕生日給食会がより一体感を育んだ。 ・運動会、音楽会、持久走大会等に向けて「心はひと～つ！」で目標を各自がもてた。	「関原小!心はひと～つ！」のスローガンが全児童に浸透し、一人一人の児童が輝ける機会を設けることができた。お誕生日給食会は児童が心待ちにするよい企画となった。	◎
いじめ防止 不登校対応	- 年度末でのいじめ解消率100% - 不登校児を減少させる。 - 意識調査の「学校は楽しい」の項目で85%以上の児童が肯定的回答	- 毎月各学年からの安全教育プログラムを用いたミニ研修と児童への安全指導の実施。 - 年2回全教員での生活指導全体会を実施し情報を共有。 - 関係機関との連携。	「学校が楽しい」項目(肯定群回答割合) 【全体平均 93.5%】 1年 92% 2年 91% 3年 95% 4年 93% 5年 97% 6年 95% [保護者] Q:「児童は休まず登校している。」 A:94.3%(R5=95.4%) ・毎月の安全指導を活かした。	WEB QU を学年全体で分析対応継続。安全指導を月1回導入。個々の問題行動や児童間トラブルに対し初期対応を重視、組織対応する情報共有を徹底。	◎

重点的な取組事項－3		体力向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自らの健康と体力の向上を目指す児童を育成する。		目標実現に向けた取組の実施結果が、4項目とも「おおむね達成」以上	確実な伸長が経年変化から分析できる。取り組みの成果と言える。	継続は力なり。児童に教師にも自信とさせたい。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力及び運動能力の向上	・都の体力調査で全項目前年度数値を上回る	・体育館体育でのサーキットトレーニングの継続。 ・校庭体育での筋力トレーニングの継続。 ・持久走、縄跳び旬間の体育的行事の年間を通じた取組。 ・柔軟性を高める運動の導入。	◇都体力調査と比較し 上【シャトルラン 反復横跳び ボール投げ】 下【握力 長座体前屈握力 50m走】 ・夏季水泳は校長が全体指導を継続。級判定へ意欲的に望ませ泳力向上が図られた。 ・持久走大会は、着順制が定着し心肺機能を高めた。今後、各学年の距離を再検討。 ・全学年、著しく運動機能の向上が図られた筋力トレーニングを継続、定着させていく。	経年変化から児童の基礎体力の着実な向上を図ることができた。さらに、鉄棒や雲梯、登り棒や肋木を活用して握力向上を図る。また、狭い校庭だが全力で走ることを推奨する。筋力トレーニングを継続させ、柔軟性を高める運動をさらに強化していく。	◎
体育の授業の質の向上	・意識調査の「体育が好き」の項目で90%以上の児童が肯定的回答 ・都の体力調査の数値向上(前年比)	・研修等を通じた体育科授業における指導方法の改善と、運動に親しめる環境や用具の工夫。 ・教師へ体育実技研修の実施。	◇都意識調査(肯定回答群割合) 「体育が楽しい」 92.4%(R6=93.6%) 「運動ができるを実感」 85.7%(R5=83.8%) 「運動は大切な」 95.3%(R5=95.7%) ・全学年の水泳、5&6年ハードル走、4年マツ運動を校長が指導し各担任をT2として実技指導法を実践の中で学ばせた。	学年体育よって、場や教具の工夫を図ったことは若手教員へ指導法を学ばせると同時に安全面で功を奏した。水泳・陸上・器械運動において指導法を継続して学ばせていく。	◎
保健及び食育指導の充実	・意識調査の「食事」や「睡眠」等に関する項目で90%以上の児童が肯定的回答	・生活リズムカードの継続。 ・保健指導や食育指導の充実。 ・養護教諭や栄養士と連携した授業の実施。 ・保護者会や各種便りを活用した保護者への啓発。	◇「早寝 早起き 朝ごはんができています」(肯定回答群割合)【全体平均 81.7%】 1年 78% 2年 80% 3年 77% 4年 90% 5年 83% 6年 78% ◇保護者 Q:「早寝早起き、朝ごはん」 A=96.8%(R5=96.8%) ・生活指導部が中心となって、各担任が遅刻児童や保護者対応に丁寧に取り組んだ。	児童の自己評価全体で 5%ほど下がった。家庭生活が要因と分析するが、保護者の意識とのズレが感じられる。特に低学年の数値が気になるので対応を早急に講ずる。	○
校内研修[授業改善] 区小研を模範とした研究の実践	・区調査の「学校の授業は楽しい」の項目に肯定的に回答した児童80%以上 ・校内研究の充実	・「足立スタンダード」を基本とした授業を基本として職層や経験値に応じた授業力向上を図る。 ・校内研究は、令和 5 年度に区小研での実践を検証する。	水泳研修は教員を児童役として体験させることで指導法を実感させた。陸上・器械運動指導は校長が指導する場でT2として補助させたり参観させたりすることで指導法を学ばせた。	教員が各運動の特性を理解し、指導法の向上が図られた。今後、個々を見極めながら全体を俯瞰する指導法を身に付けさせたい。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて＜重点的な取組事項－1＞

【成果と課題】

・区調査結果では前年比、全体で通過率を国語 1.7 ポイント、算数 5.2 ポイント下げたが、2 教科とも通過率、正答率で区の平均を上回り区内 67 校中上位を依然としてキープしている。特に正答率での順位が上がったことは注目に値する。意識調査からも児童は学習に対して意欲をもち、自分の思いや考えを積極的に伝え合おうとする意識があると分析できる。学校全体の共通指導として見直しや空欄をなくす取組は粘り強さや向上心が育んでいる。教師による「わかる」「わくわくする」「わらいのある」の『3つのわの授業』の展開は基礎学力定着につながっている。今後、ICT 機器の活用をどのように学力向上につなげるかが課題である。

【対策】

- ・授業では、授業規律の徹底（はい。立つ。～です）。足立スタンダードを基本とした教師の授業改善工夫。A I ドリル活用による個別復習の強化を図る。
- ・補習学習では、個票分析による抽出児を、東京ベーシックドリルの段階的指導と A I ドリルの活用で習熟を図る。また、補助の体制より手厚くしていく。
- ・個別指導では、「九九」「漢字」「23 区」「都道府県」検定で個々を賞賛して意欲を引き出すとともに単純暗記力を鍛える。漢字は本校統一問題を作成する。

イ 豊かな心の育成について＜重点的な取組事項－2＞

【成果】

「関原小 心はひと～つ！」を柱に、愛校心を醸成するとともにお互いを認め合う豊かな心を育むことができた。特に各種行事や集会では、代表委員会や各委員会児童が元気ある姿で自主性や創意工夫を発揮させた。お誕生日給食会は特に児童の連帯感を育んだ。表彰朝会では、自己肯定感と自信を大きく培えた。

【課題】

- ・いじめはアンケートや聞き取りから、小さな芽に丁寧に対処すること、誤解を早い段階で解くことを学年単位で心掛け、大きな事案や問題にはならなかった。
- ・不登校問題も、家庭の事情もあってか 0 件にする事は難しかった。組織で共有しそれぞれの事例に見合った対応をしながら経緯観察し対応を続ける。
- ・児童アンケートからは、ほとんどの児童は学校が楽しく、相談できる相手もいると答えているが、自己肯定感がもう一歩である児童をなんとかしたい。

【対策】

- ・いじめ不登校対策委員会で継続的に問題を共有して組織的に行動していく。また、区関係機関や SC と連携を図って解決を目指しアプローチを諦めない。
- ・「自分で考え、自分で判断し、自分で行動する」の目標とし、自己肯定感高揚の為に一人一人を賞賛することを継続。表彰朝会でお互いを認め合う大切さを啓発。

ウ 体力向上について＜重点的な取組事項－3＞

【成果と課題】

- ・保護者参観がある体育的行事では学年入替制が定着され混乱なく実施できた。児童の意欲を啓発し、競い合う中で切磋琢磨する力を育めた。
- ・体力調査ではその向上の為に取り組んだ筋力トレーニングの成果は著しく、経年変化比較から顕著に数値として現れた。

【対策】

- ・体育の指導法を見直し、児童の運動量を確保するとともに技能向上の為に、校長主催の校内実技研修及び安全面からも学年体育を今後も継続していく。
- ・基礎体力向上の為に、筋力トレーニングを準備運動の際に取り入れ、特に握力や走力向上は休み時間の活用も視野に入れて工夫していく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

安全で安心な学校生活を送っている本校は、児童の連帯感一体感が構築されています。決して広いとは言えない校舎や校庭の中で各種学校行事の際には、一人一人の児童が輝き頑張る姿を混乱なく参観していただく工夫にご理解ご協力を賜り感謝しております。「関原小 心はひと～つ！」のスローガンは児童に浸透し、各種行事等では必ず盛り込まれ、児童の愛校心が確実に育まれています。地域及び保護者の皆様には、今後とも本校を温かく応援していただきますようお願い申し上げます。

(3) その他（学校教育活動全般について）

区の命題である基礎学力の定着と学力向上において安定度をキープしている。4月の区学力調査では両教科とも目標値を大きく超え、上位をキープすることができた。基本である授業においては、教師は授業力向上のために教材研修に励み、校内研究授業や小中連携公開授業、教科指導専門員の指導で力量を高めてきた。児童は授業規律を守り、自主学習や AI ドリルの活用で弱点を克服する努力を重ねてきた。環境が人を変える。教師も児童も関原小という伝統ある良き校風を継続してさらに発展させていきたい。